

第6学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『平和で豊かな暮らしを目ざして』

(教科書：『小学社会 6 上』 p. 134～145／学習指導要領：内容（1）ケ）

2. 小単元の目標

終戦時の人々の暮らしや戦後の発展を調べ、人々の生活の様子や発展の要因を調べ考えることを通して、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上していったことがわかる。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
戦後の発展に関心をもち、発展の要因を意欲的に調べ考えようとする。	終戦当時の人々の様子や戦後の発展の要因を、資料をもとに考えることができる。	終戦当時の子どもの暮らしや戦後の様々な改革について、写真やグラフなどの資料から調べることができる。	日本国憲法の制定や戦後の様々な改革を経て、民主的な国家として出発し、国民生活が向上したことがわかる。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

クラス全体の傾向として、思考・判断の部分が弱い。授業のまとめを書かせると、「……がわかりました」「……を知りました」と、知識についての記述が多く、友達の考えを聞いてどう思ったか、自分はどう考えるのかなどの記述が少なかった。また、これらの理由を話す際に、資料や既習事項を根拠として取り上げることを苦手とする子どもも多い。

資料の読み取りについても、描かれたこと、書かれたことを表面的な部分だけで読み取る「浅い」読みになりがちである。例えば、黒船来航の際に、「ペリーが開国を要求しても鎖国を続ければいい」と考える子どもが多かった。これは、「鎖国を強要すれば武力行使もありうる」「戦争になった場合には、日本は勝てる見込みが少ない」などの時代背景についての知識が不足していたり、そのような背景を見抜こうとしたりする意欲が少ないことに起因していると考えられる。

歴史の学習で、当時の人々の働きを理解するためには、現代の私たちの視点ではなく、当時の人々の目線で考えることが重要である。そのために、当時の時代背景はどのようなものだったのか、写真に写っている人が抱えているものは何かを「想像」することが極めて重要になってくる。

(2) 教材について

日本は15年に及ぶ戦争において、国内外で多くの犠牲を払い、苦しい生活に耐え、原爆の投下を経て終戦を迎えた。敗戦という絶望的な状況、明日食べる物にも苦勞する物不足の中から、民主的な国家として出発した日本は、驚異的な発展を遂げ、20年足らずでオリンピックを開催するまでに成長を遂げる。

この要因は何だったのか。民主的で平和的な憲法が人々に希望を与えたことや、アメリカをはじめとする他国の援助がある。また、苦しい中でも助け合いながら乗り越えてきた先人の努力がある。

太平洋戦争をはじめとする戦争の学習では、歴史的な事件や出来事を追うあまり、政治についての学習が多くなりがちになる。また、戦争は遠い世界や別次元の出来事と考えられがちで、戦争の悲惨さや苦しさを子どもに伝えることが難しい。

本小単元では、戦争の悲惨さを身近なこととして考えさせるために、子どもの視点で見た戦争や戦後の時代を追究させる。同じ子どもの視点で歴史事象を捉えさせることで、歴史の中の事件が遠い世界のことでなく、身近な世界のことであることに気づかせる。

『小学社会6上』（教育出版）では、子どもの視点で戦争や戦後を学習する資料が多く見られる。例えば、子どもが多く出ている写真資料、学校の授業風景、学校給食、男女共学、墨塗り教科書などがある。これらの資料を有効に活用する。

（3）指導上の工夫・留意点

最初に、当時の食糧事情の厳しさに焦点をあてる。ララ物資（海外からの援助物資）として供給された脱脂粉乳が使われた学校給食を題材として扱う。現代の子どもには決しておいしいとは言えない脱脂粉乳を笑顔で飲む教室風景に、子どもは驚くと考えられる。しかし、その背景には、戦争が終わってもなお続く食糧不足がある。また、戦争が終わり平和な時代の到来を喜ぶ気持ちもある。

さらに、子どもの生活を中心に学習を広げていく。戦後「青空教室」で学ぶ子どもの写真を見せて、「わかったこと、気づいたこと、思ったこと」を発表させる。明るく楽しそうに学習している様子が印象的である。しかし、写真の詳細に注目すれば、それは外であり、背景には瓦礫の山が見える。終戦直後の苦肉の策として行われた特設の「学校」であることがわかる。

この子どもたちは本当に明るく楽しい気持ちで学習しているのかを考えさせる。戦争で家族を失った子どももいるし、家を焼かれた子どももいる。家族を亡くした子どももいるだろう。一方で戦争が終わり、空襲などの恐怖に怯える必要がなくなり、明るく前向きな気持ちから表出された笑顔であるとも考えられる。そう考えると、「明るく楽しそう」に見える笑顔には、様々な意味があることに気づく。

子どもに考えさせる際には、考えと資料を結びつけて、事実から考えさせるようにする。例えば、両親の遺骨を抱いて満州から引き揚げてきた子どもたちの写真から、親を戦争で失った子どもが多かったことがわかる。また、太平洋戦争の戦死者数から、家族を亡くした子どもの多さを想像することは容易である。

5. 小単元の指導計画（総時数6時間）

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① (つかむ) 【本時】	当時の食糧事情の厳しさを理解させる。	○当時の学校給食の様子の写真を見て、わかったことを話し合う。 ○脱脂粉乳を飲んでみて、なぜ、子どもは笑顔なのかを考える。 おいしくなかった脱脂粉乳を、どうして笑顔で飲んでいるのでしょうか。 ○家族が戦争で死んだ状況や食糧不足の状況を合わせて、当時の暮らしを考える。	◇当時の学校給食の様子を理解させるために、脱脂粉乳を試飲する体験を準備する。 ◆当時の食糧事情などの生活の厳しさについて考えたことを記述している。 (思・判・表／発言，ノート)
② (調べる)	終戦当時の学校の様子や子どもの暮らしについて関心を持ち、自分の考えを確かめる資料を探す。	○「青空教室」で学習している様子から、わかることを話し合う。 ○「青空教室」の多くの子どもは笑顔であることから、この当時の子どもは明るく楽しい気持ちで学校に行っていたのかどうかを考える。 ○終戦当時の子どもの暮らしを調べ、自分の考えの根拠を見つける。	◎写真資料「『青空教室』で学ぶ子どもたち」 ◆終戦当時の子どもの暮らしに関心を持ち、調べていこうとしている。 (関・意・態／学習の様子，ノート) ◆終戦当時の子どもの暮らしについて、本などから調べることができる。 (技／発言，ノート)
③ (調べる)	日本が民主的な国家として新しく出発したことを理解させる。	○「あたらしい憲法のはなし」を読んで、何が変わったかを明治憲法と比較しながら調べる。 ○終戦後に行われた改革について調べる。 ・男女平等になる。 ・義務教育が始まる。 ・女性の選挙権が保障される。 ・軍隊を解散する。	◎「あたらしい憲法のはなし」 ◆教科書や資料集の資料を使って、戦後の様々な改革について調べ、まとめることができる。 (技／ノート) ◆平和憲法の制定や戦後の様々な民主的な改革について理解している。 (知・理／発言，ノート)

④ (調べる)	戦後から高度経済成長期にかけて、国民の生活が急激に向上したことに気づかせる。	○「電気製品の普及」グラフの読み取りを通して、国民の生活が急激に向上したことに気づかせる。 ・電気冷蔵庫や電気掃除機が急激に増えている。 ・カラーテレビが増えているのは、オリンピックの影響があるのではないか。 ○戦後から高度経済成長までの生活の変化を教科書や資料集などを使って調べる。 ・新幹線が開業した。 ・東京タワーができた。 ・高速道路がどんどんつくられた。 ○当時のことを家族へ聞き取り調査することを勧める。	◎「電気製品の普及」グラフ ◇戦後から高度経済成長期の生活の変化について、家族への聞き取り調査を勧める。 ◆戦後から高度経済成長期の生活の変化をすすんで調べまとめている。 (関・意・態／学習の様子、ノート) ◆「電気製品の普及」グラフを正確に読み取ることができる。 (技／発言、ノート) ◆電化製品の普及、新幹線の開通、オリンピック開催など、戦後の経済的な発展について理解している。 (知・理／発言、ノート)
⑤ (調べる)	日本の現在の課題について、歴史との関係を考えながら理解させる。	○現在の日本と他国との課題について、教科書などを使いながら調べる。 ・韓国と北朝鮮と日本の関係 ・中国と日本の関係 ・未解決の北方領土問題 ・沖縄のアメリカ軍基地 ○調べた問題と、歴史事象の関係を考える。 ・中国と仲が良くないのは、戦争をしていたことがあるからか。 ・戦争が終わったのに、どうしてアメリカ軍の基地が日本にあるのか。	◇ここまでの学習を想起させながら話し合う時間をつくる。 ◆現在の日本と他国との課題について、歴史事象と関連づけながら説明している。 (思・判・表／発言、ノート)
⑥ (まとめる)	戦後から今日までの日本の発展について、意見文を書かせる。	○「戦後の日本の発展の秘密」という題で意見文を書く。なぜ、短期間で発展できたのかについて、歴史事象を根拠にして、自分の考えを書く。 (作文の要旨の例) ・軍隊をつくらないことにしたので、人々は安心して仕事に打ち込めた。 ・義務教育を9年間にして、無償にしたので、優秀な人が増えた。	◇意見文は、国語科の学習を生かして書かせる。考え、理由、根拠となる資料がわかるように書かせる。 ◆学習したことをわかりやすく意見文にまとめることができる。 (技／意見文)

6. 本時の指導（第1時）

（1）本時のねらい

脱脂粉乳を飲む体験や当時の給食風景の写真資料の読み取りを通して、当時の食糧事情の厳しさを理解させる。

（2）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
10 分	○戦後の学校給食の様子の写真を読み取る。 T：写真を見て、わかったこと、気づいたこと、思ったことを書きましよう。 C：女の子が何かを配膳している。 C：おかわりをしているのかな。 C：おいしそうに飲んでいる。 C：すごく笑顔で、うれしそうだ。 C：学校の食事だ。給食かな。 C：パンもある。 C：戦争が終わって、食べるものが増えたのか。 C：お金は払っていたのか。いくらなのか。 C：味はどうなのだろう。笑顔だからおいしいのかな。	◎教科書掲載の写真「学校給食が始まる」 ◇写真資料では、時間（時代、季節、時間帯など）と場所を確認させる。この資料では、学校の昼食時であることを確認させる。 ◇当時の給食のメニューに興味をもった意見が出たら、予想させたあとで、メニューを紹介する。 →パンと飲み物（脱脂粉乳）のみ
25 分	○実際に脱脂粉乳を飲む体験を通して、写真の読み取りを深める。 T：この飲み物を脱脂粉乳と言います。おいしかったでしょうか。まずかったでしょうか。 C：おいしかったと思う。 C：おいしくなかった。まずかった。 T：実際に脱脂粉乳を飲んでみましょう。 C：牛乳みたいな飲み物だ。 C：甘いにおいがする。 C：味はちょっと苦手だな。 おいしくなかった脱脂粉乳を、どうして笑顔で飲んでいるのでしょうか。 C：当時は食べ物がなかったからお腹がすいていて、おいしかったのではないか。 C：今まで戦争で食べ物がなかったから、脱脂粉乳でも飲めてうれしいのではないか。 C：疎開先ではなかなか食べ物がなかったそうだから、少しでもあるだけでうれしかった。	◇実際に飲む前に、脱脂粉乳の味を予想させる。 ◇脱脂粉乳を児童の数だけつくっておく（衛生面では十分に注意を払う）。給食用のものを使用する。戦後当時よりも粒子が細かく、飲みやすくなっている。しかし、苦手を感じる子どもも少なくないと考えられる。 ◇飲んだ感想を発表させる。 ◇戦後、実際に脱脂粉乳を飲んでいた方に、当時の味について話してもらうのもよい。 ◇戦時中の人々の様子（＝既習事項）と関連づけて考えた意見をほめる。

	C：戦争では亡くなった人が多かったから、今、生きていて、学校で友達と一緒に食事をしていることを喜んでいると思う。 ○新たな資料も活用しながら、考えを深める。 C：瓦礫の中を歩いて登校している子どもの写真がある。戦争が終わっても大変な状況が続いているから、わずかも食べ物があることは、ありがたいことなのだろう。 C：当時の小学生の平均身長を見ると、今に比べてとても低い。食べ物があまりなかったに違いない。だから、脱脂粉乳が飲めることは、すごくうれしいことだったはずだ。	◎瓦礫の中を登校する子どもの写真 ◎6年生の平均身長と比較表 ◇子どもから意見が出なかった場合には、「これをもとにして考えてみては？」と、教師から新たな資料を提示する。 ◇学級内の児童の身長差などに十分配慮し、必要に応じて児童の発言等を指導するようにしたい。 ◇時間があれば、「脱脂粉乳の代金はいくらか？」「食料がない時代に、だれが提供してくれたか？」も考えさせる。
10分	○今日の学習のまとめをする。 T：今日学習したことについての考えを書きましょう。 C：戦争が終わったけども、まだまだ食べ物は恵まれていなかった。(B) C：平和な時代になっても、まだ苦しい生活は続いていた。 C：あまりおいしくなかった脱脂粉乳をおいしく飲んでいけるから、それだけ食べ物に困っていた。(B) C：戦争が終わっても苦しい生活は続いていた。脱脂粉乳でさえもありがたかった。(B) C：〇〇さんが言っていたように、戦時中は疎開で食べ物がなかったのだから、わずかな食べ物でもありがたかったと思う。(A) C：焼け跡の中でも、がんばって学校に行っているのだから、少しの食べ物でもありがたいと思ったのだろう。(A) C：平均身長がこんなに低いということは、栄養があまりとれなくて、お腹がすいていたんだと思う。(A)	◆当時の食糧事情などの生活の厳しさについて考えたことを記述している。 (思・判・表／発言、ノート) (B)：当時の食糧事情などの生活の苦しさについてまとめている。 (A)：(B)に加え、友達の意見や資料を引用しながら自分の意見をまとめている。 ※左の文例を参照